

2013年

携帯サイトへGo!→  
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

## 教室だより 12月号

### わが子に確かな学力を残す

12月22日頃は二十四節気の一つ、一年で最も昼の時間が短い日「冬至(とうじ)」です。冬至が過ぎればクリスマス、サンタクロースからの贈り物を心待ちにしている子どもたちも多いことでしょう。

ところで、親がわが子にしてあげられる最高の贈り物とは何でしょうか。「確かな学力」を身につけさせることではないかと私は思います。財産を遺しても使い切ってしまうおしまいです、身につけた学力は生涯自らを支え続けてくれることでしょう。あれもこれもと欲張らずに一つのことを根気よく続けることが、「確かな学力」を身につけるために有効な一つの方法です。しかし、子ども任せでは一つのことを続けるのはなかなか難しいものです。特に、子どもが幼いうちは、親が強い意志や気持ちを持つことが大切でしょう。目先のことにとらわれず、将来のために今何が必要かを判断して、厳しい態度で臨まなければなりません。

### 公文式の創始者・公文 公(くもん とおる)先生の言葉より

“自学自習”だからこそ本物の学力が身につきます。

「勉強は教えられなければわからないものだとばかり思っていました、自習で進んでいけるということが初めてわかりました」

まだ学校では習っていない因数分解の問題を、公文式でスラスラ解けるようになった中学2年の女の子が、目を輝かせて私に話してくれたことがあります。

私がこの教材を作ったのは、子どもたちに「教えられなくても自分でなんとか進んでいける」ということを知らせてあげたかったからです。公文式の教材が、平凡な問題の連続であるのは、子どもが自習だけで進んでいけるように、予習・復習分をすべて含んでいるからです。

公文式の値うちは自習で学年を越えていくところにあります。なるべく早く高校教材に進み、確かな学力を身につけてほしいのです。そして、自習で学んでいく習慣を体得した子どもならば、大学に入ってからも社会に出てからも、自分で本を読んで問題を解決していける人間に育っていくはずです。私がこの学習をひとりでも多くの子どもたちにさせたい大きな理由が、ここにあります。

## 2013年 12月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23 <small>天徳祭日</small>	24	25	26	27	28
29	30	31				

本市場教室日口

横割教室日△

昔のことを調べて、そこから新しい考え方や知識を得ること。

◆「温故」は「昔のことを調べる」こと。「温故知新」と書かないこと。

「お兄ちゃん温故知新のために、古い歴史の本を読みはじめた。」

「おしいちゃんの話や聞き、昔の人のちえを知る。これも温故知新だ。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

## 温故知新

今月のことば

## \*ゆき子の一言コラム

### ～直しが多かったときに、その辛さをわかってあげるからこそ、いちばんの応援～

公文式の学習は、その子その子の「ちょうど」にあわせて教材が用意されますから、いきなり難しくなることはありません。とはいえ、単元の最後のほうでは、いろんなパターンの問題がミックスして出てきたり、少し意地悪な問題や、根気を要する問題が出てきます。公文式は、その日の教材を全部100点に仕上げないと教室から帰れませんので、時には直しが多くて、なかなか終わらない日もあるでしょう。送り迎えで、教室の外で待っていて、なかなかお子さまが出てこない、イライラされることがあるかもしれません。やっと教室から出てきて、車のドアを開けた瞬間、「こんなに遅くまで、何やってたの?」と、思わず叱り口調でお子さまに声をかけていることがないでしょうか。

学習はすすらできるときばかりではなく、間違いながら、それを直すことによって力をつけていく段階があります。どこが間違っていたのか、自分で見つけて自分で直すことで、注意力と粘り強さを身につけていくのです。間違いから学ぶことは、進歩・向上の鍵であり、最後までやりとげる姿勢は、その後の学業生活、社会生活にも大きく役立ちます。

お子さまがなかなか出てこない日は、まず「どうだった?」と聞いてあげましょう。聞いてもらえば、子どもはその日の学習の大変さを説明できます。何度も消してやり直した、少ししわくちゃになったプリントは、がんばったお子さまの証しなのです。直しが多かったときに、その辛さをわかってあげるからこそ、「がんばる力」を強くしていくための、いちばんの応援になると思います。

### ～家庭教育における 大切な3つの「見」～

子どもの将来を考える上で家庭における教育の役割が重要であることはいまでもありません。昨今の子どもを取り巻く環境は複雑であり多様化しています。これまでとは違い、出てくる問題も予想だにできない時代になっています。子どもの輝く未来に向けて、親として家庭教育の立場でできることを、この3つの「見」という視点で考えることは大切ではないでしょうか。

**見る力** わが子の現在をあるがままに見て、受け入れていく力

**見通す力** このままいったら将来どうなるかを予測する力

**見極める力** 何ができるかを考え、やるべきことを選択し判定できる力

しかし上記の力がどれくらい備わっているか、子ども自身が客観的に自分の現在を考え、そして将来を考えることは難しいことではないでしょうか。さらに何をしたらいいかは親のアドバイスが必要でしょう。子どもの将来に向けて大事なことが数多くあります。あれも、これもと浮かぶことでしょう。それを全て望むことは難しいことですし、子どもにとってもストレスです。「これが大事」という賢明な親の知恵が大切ではないでしょうか。

**公文式の原点、それは、学習がおもしろくてたまらない、うれしくてたまらないという状態であることです。**

公文式は、自ら意欲的に自習で、「学年」を越えた未知の分野をチャレンジする力を養うことで、「能力を最大限に伸ばす」学習法です。意欲的に自習で学習することが、なぜ「能力アップ」になるのでしょうか?その構図の概略をおさらいしてみましょう。学習は、まず「できるところ」からスタート!できるからうれしい!できるから学習が好き!少しのヒントやアドバイスで、どんどん自習で先に行けるから学習が楽しくなります。できることで、周りから認められる!ほめられる!だからうれしさが倍化します。そうすると、学習をもっとやりたくなります。

学習の回路が回り始めます。できるから好き!好きだからできる!という好循環が生まれます。

その際、「ちょうど」の難易度・「ちょうど」の量の、・・・やさし過ぎず難し過ぎない・・・課題に、自習力をバネに取り組むことで、さらに脳がフル回転していきます。集中して学習しやすくなります。学習に、深さ・密度が加味されます。脳はさらに鍛えられます。時間を計る(言わば、制限時間を設ける)ことで、集中力にますます磨きがかかります。そうして、粘り強く課題にチャレンジし、自力(自習)で解けたときの「やったー!できた!」という達成感。この何物にも代え難い深い喜び!このとき、脳も「うれしくてたまらない」状態なのです。

こうして、脳に言わば「喜びの回路」が形成され、「能力を無理なく最大限に伸ばす」ことが可能になっていくのです…。

## その他連絡

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

12月分の会計引き落としは11月28日(木)です。よろしくお願ひいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

